

富士山ゼロメートルPW報告

15期 増田 富雄

この夏、70歳を目前に控えた4人の男たちが、海拔ゼロメートルから日本最高峰に登ろうという、現役生でも考えられないような破天荒な山行を計画し成功させました。標高差3,776メートル、踏破距離42キロ、3泊4日の大挑戦でした。



〈挑戦者たち=左から増田、上馬、松林、坂尻〉

まず、私がなぜこのPWを企画したのか、から始めたいと思います。

私が2～3年前に東海道を駿府から江戸に向かって歩いていた時に何度か、道路にペイントされた『富士山登山ルート3776 富士山へ、0メートルからの挑戦』の標識を見つけました。昨年、坂尻君と上馬君が富士山0合目からの登山ツアーに申し込んだものの台風で中止になった、という話を思い出して、富士市のホームページを調べてみることにしました。このルートは富士市が企画・設定して2015年7月10日にスタートしたのですが、最初の2年間は広報発信力も弱く、地元以外にはほとんど知られていませんでした。それが昨年から年間200人余が挑戦するようになり、今年は400～500人になったのではないかと、思っています。ちなみにゴール後、富士市役所から私のところに届いた【挑戦達成証】の番号は“第1-430号”でした。

6月、「富士山登山ルート3776」の情報収集と資料集めのため富士市役所富士山観光課に行き、担当者から詳しい説明を受けました。市もこの企画成功に本気で取り組んでいることを強く感じることができました。

また自分自身のことですが、14年前に脳梗塞で

半身不随になり、退院後もジムでリハビリを兼ねたトレーニングを続けてきましたが、山登りはできないものと諦めて四国お遍路や東海道などロードを歩いてきました。しかし心の中では山登りを再開したいという気持ちもあり、長年のトレーニングの成果も見てみたかったのです。

坂尻君、上馬君に松林君も加わり3泊4日（予備日1日）の山行が決定しました。ロードが専門の松林君は山登りには不安を感じていましたが、全行程42キロのうち28キロがロードであることから参加を決めたものです。

〈メンバー〉坂尻忠秀・上馬康生・松林知一・増田富雄（全員15期）

〈日程〉2019年9月1日（日）～4日（水）

〈コース〉

- 9/1 JR吉原駅～田子の浦海岸～富士塚～吉原商店街～曾比奈バス停～よもぎ湯～農家民宿やまぼうし（標高約500m）
- 9/2 やまぼうし～石油採掘跡地～ふじひのきパーク～表富士グリーンキャンプ場（標高約1,200m）
- 9/3 表富士グリーンキャンプ場～旧料金所ゲート～ガラン沢～山体観測装置～新七合目御来光山荘（標高約2,750m）
- 9/4 新七合目御来光山荘～八合目池田館～九合目万年雪山荘～浅間大社奥宮～剣ヶ峰山頂～お鉢巡り～富士宮口五合目バス停～三島駅



〈海拔ゼロメートル、田子の浦からスタート〉

行動記録

8月31日（土）

夕方、静岡駅構内にあるおでん屋でPWの成功を祈念し乾杯！

9月1日(日)快晴

朝7:06の東海道線に乗り7:50吉原駅に到着。スタート地点の富士塚(スタンプラリー起点)まで歩き、更に少し歩いて田子の浦の海岸まで。坂尻が用意してきたペットボトルに海水を汲む(頂上に帰すため)。海拔0メートルの証拠写真を撮り、富士塚に石を積んで登山の無事を祈る。

8:30富士塚を出発し旧東海道を西に進み名勝左富士(江戸から京都に向け歩いてくると常に右側に見えていた富士山が1ヶ所だけ左側に見えるためこの名がついたもの)から吉原商店街を抜け富士市役所方面に進む。

松林と私は旧東海道を歩いていたので懐かしさも加わりコースタイムが膨らむ。その後は真っすぐに北に、ひたすら歩くのみ。アスファルト舗装の道で緩やかながらもずっと登りが続くうえ30度を超す暑さで途中のコンビニで買ったペットボトル4本があっという間になくなった。炎天下の中をさらに進むと家並みもまばらとなり、13:00よもぎ湯前を通過し14:00本日の宿である農家民宿やまぼうしに到着(標高500メートル、スタンプラリーポイント)。本日の歩行距離14.5キロ!

民宿やまぼうしはその名の通りヤマボウシの木に囲まれた山本さんが経営する民宿である。着くと冷たい水とお茶で接待してくれ、かつ洗濯までしてもらい大感激!晩ご飯は新鮮な地鶏と山菜で明日の英気を養った。

9月2日(月)快晴

7:00朝ご飯をゆっくり食べスタート。今日のコースはもはや民家もなく、ただひたすらアスファルトの林道と富士山スカイラインの登りを歩く。途中1ヶ所しかない水場での補給が重要である。



〈ゴールは遙か彼方=1日目の宿泊地から〉

8:50水場の石油採掘跡地(誠信会ふくしの里)に着。戦時中物資特に石油不足となり、富士山を掘っていけば石油が出るのでは?極端に言えば地球の裏側くらいまで掘れば出るのでは?というようなお伽噺のように採掘した跡らしい。

10:05ふじひのきパークで休憩。道すがら単調な林道ウォークの中で上馬から木や草花と野鳥の話を聞きながら楽しく歩く。

10:50天照教社で休憩。今標高が高くなってきているため昨日ほどは汗をかかない。

11:30少し日陰があったためその場所で昼食休憩。あと1時間くらいで本日の宿に着くためゆっくりと横になる。歩き始めようとするとう坂尻が松林のザックの左右のバランスが悪いことに気づき紐を締めなおしてあげたのを見て私のも見てもらおうと松林よりもっとひどい!と言われバランスを直してもらった。実は今回富士山用に37リットルのザックを買ったばかりで初めて使用するためバランスや紐の締め方、長さ等なにも調整してなかったのだ。



〈2日目の宿泊地・表富士グリーンキャンプ場〉

13:00表富士グリーンキャンプ場到着。(標高1,200メートル、スタンプラリーポイント)本日の歩行距離13キロ!

チェックインは午後2時であるが融通を利かせてもらい、コテージの鍵と調理道具・椅子テーブル等を受け取り4人でコテージへ。少し休んだ後、シャワーで汗を流し夕方のバーベキューまでゆっくりする。ガスが次第に濃くなり小雨模様になってきたので屋根の付いている調理場へ移動しバーベキューをする。9月に入り平日でもあったため利用者は少なく、調理場を使えたのはラッキーであった。

ここでは坂尻が“板さん”として大活躍をし、富士宮焼きそばだけは静岡出身の私が担当する。バーベキューの大失敗は翌日昼飯用にと用意して

いた冷凍焼きおにぎりを焼かなかったことである。お陰で翌日は解凍状態の水分のないぱさぱさの昼飯となったのである。

コテージは4人用だったが、狭いうえマットが湿っていて何となく気持ち悪いのと暑さでたまらなかったが、それでも疲れていたため知らぬ間に眠ってしまった。

9月3日（火）快晴

5:00 起床してすぐ昨晚作っておいたベーコン・レタス・トマトパニーニ（ハンバーガーみたいなもの）を食べ出発準備。

6:00 出発しようとした時コテージの中に忘れ物を発見！何と坂尻の生命維持装置？であった。坂尻にもおっちょこちょいなところがあるのを知り変に安心した。

7:25 富士山スカイライン旧料金所ゲート（二合目あたりか？標高1,460メートル）で休憩。坂尻と上馬はここでウォーキングシューズから登山靴に履き替える。ここから山道に変わるが最初はなだらかな歩きやすい登りである。

8:55 ガラン沢到着、休憩。樹林帯からガレ場の多い景色に少しずつ変化し、ルートも沢筋から尾根筋に変化していく。

9:50 御殿庭下（標高1,980メートル）休憩。腹が空いてきているためそれぞれ行動食。私は昔懐かしいコンデンスミルクをチューチュー！

11:15 御殿庭中で休憩。昨日焼き忘れたぱさぱさの冷凍焼きおにぎりを食べる。松林は完全に疲れスピードダウンの状態のため3人で少しづつ松林の荷物を分ける。松林は水分のないおにぎりが食べられないため私の飲みかけのコンデンスミルクを渡しチューチュー！



〈富士山頂を見ながら宝永火口縁に行く〉

12:00 宝永第二火口縁で休憩。砂礫の道が続くため歩くたびに少し滑って戻る感じで精神的に疲れる。宝永山の火口の大パノラマを右に見ながら富士山頂が段々と大きくなっていく。あと1ピッチで六合目宝永山荘・雲海荘である。

12:30 六合目宝永山荘・雲海荘（標高2,500メートル、スタンプラリーポイント）休憩。全員水分補給と行動食を食べる。

松林は疲れて飲み込みが悪いため上馬が持ってきたゼリー食品をもらいチューチュー！

ここで突然松林が「もう無理だ。ここで自分は下山する。3人で登山を続けてくれ！」と音を上げた。松林の荷物を更に3人で分け予約してある新七合目御来光山荘まで取り敢えず行くことで説得し出発。

14:45 新七合目御来光山荘（標高2,780メートル）到着。着いて荷物を自分の寝床におくと入口にある食堂へ4人で集まる。

松林が今日のお礼だとして高価な缶ビールを奢ってくれ乾杯！晩ご飯は富士山山小屋ポピュラーのカレーライスを食べ就寝。夏山ピークを過ぎていたため4人ベッドを2人で寝られ熟睡。

9月4日（水）快晴

3:00 起床。起きてすぐのご飯は唾液も出てこないし食欲もわからないがペットボトルのお茶で流し込むように食べた。

3:45 出発。ヘッドライトをつけて歩き始めるも松林の足元が覚束なくなり20分で最初の休憩。松林の荷物をまた3人で分け、歩き始めるも20分ほどで進まなくなり休憩。3人で励ましながらゆっくりゆっくり登る。

4:45 元祖七合目山口山荘（標高3,030メートル）到着。

ここで松林からどうしても下山すると言って引き下がらないため私が松林と行動を共にし下山すると提案。そして坂尻から強烈な励ましの言葉があった後、松林の荷物をここに置き松林は空身で登る提案があったため上馬と私が賛同し、どうにかパーティを分裂させないことができた。

これにより下山ルートは当初計画では御殿場ルート（大砂走ルート）であったが登りと同じ富士宮ルートとなった。

5:15 御来光を迎える！



〈七合目からの御来光〉

6:00 八合目池田館（標高 3, 220 メートル）到着。
かなりスローペースになりながらも砂礫と大きな溶岩が広がる足場の悪い場所を進む。

6:55 九合目万年雪山荘（標高 3, 400 メートル）到着。気力を振り絞り赤茶けた溶岩塊の急登を登る。



〈富士山頂に田子の浦の海水を帰す〉

7:45 九合五勺胸突山荘（標高 3, 550 メートル）到着。頂上の鳥居が目の前に迫り最後の石段の登りである。空気が薄いため呼吸が荒くなる。

8:30 頂上富士館・富士山本宮浅間大社奥宮（標高 3, 710 メートル）到着。ヤッター！！よくぞ頑張った4人のワンダラーよ！！

奥宮前で記念撮影しお参りした後、剣ヶ峰頂上まで4人でワンデリング。

9:00 剣ヶ峰山頂（標高 3, 776 メートル）到着。坂尻が田子の浦から持ってきた海水を故郷の二等三角点に戻し富士山の恵みに感謝した。疲れ果てた松林を残し3人はお鉢巡りにスタート。空身であったせいもあるがコースタイムより30分も短い50分で頂上富士館前に戻る。

11:00 下山する若者グループから水を1人500ミ

リリットルずつ分けてもらい富士宮口五合目着を14:35 目標に下山を開始した。

順調に下山中八合目池田館を過ぎてから私が2回転倒した。2回とも尻もちの後、前側に倒れ手をついた。2回目は手と足だけでなく顔（鼻の下と顎）も岩にこすり休憩となる。リハビリを兼ねたトレーニングを長年やってきてお遍路や東海道を歩いてきたが、やはり未だに右半身全体、特に右足の踏ん張る力が足りないのだということを実感させられた。残念だが自分自身の力を認め今度は私のザックを松林に背負ってもらい元祖七合目山口山荘まで空身で歩く。ここまで天候には恵まれすぎるほどだったが、下りの途中から小雨が降り出し本格的な雨模様になる。

残してあった松林のザックを回収し、私の荷物の一部を坂尻と上馬に持ってもらい新七合目御来光山荘、六合目宝永山荘・雲海荘を経て

14:20 富士宮口五合目到着。入山料1人1,000円を払い記念バッジを貰う。

14:35 三島駅行き富士急バスに乗り16:57 三島駅から新幹線こだまに乗り車内で“富士山ゼロメートルPw”の成功と全員の健闘を祝って乾杯をした。バンザイ！！バンザイ！！バンザイ！！

松林が「3人には本当に感謝する。お陰で一生の思い出ができた。ありがとう！」と言った時には涙が出て止まりませんでした。本当にお礼を言いたいのは私自身だから・・・！！

坂尻君、上馬君、松林君ありがとうの言葉しか見つかりません。本当にありがとうございました。



〈標高差 3, 776 メートルを踏破＝富士山頂〉